

# 松 下 玲 子

東京都議会議員  
まつした れいこ



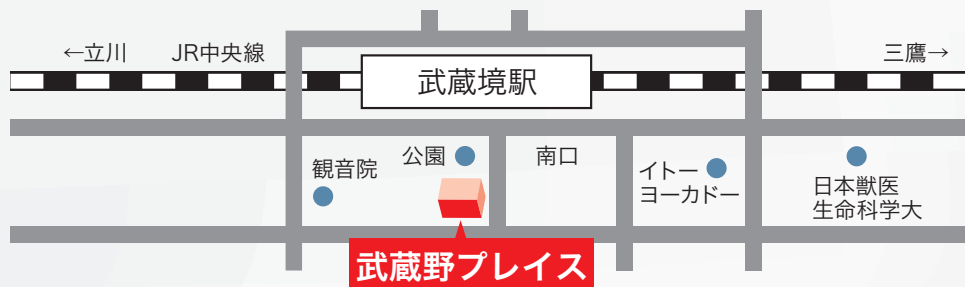
【松下玲子プロフィール】1970年生まれ。実践女子大学卒業後、民間企業で8年間の勤務後、早稲田大学大学院修了、(財)松下政経塾での研修を経て、2005年都議初当選。現在、2期目。総務委員会副委員長、都議会民主党総務部会会長。家族は夫(会社員)と子ども。

## 都政報告会 **開 催**

どなたでもお気軽にご参加ください

**8月29日(月) 14:00~15:30**  
[開場時間 13:30]

会場 / **武蔵野市立武蔵野プレイス 4階フォーラム**  
武蔵野市境南町2-3-18



### 都政報告会 テーマ

#### 高架下のまちづくりはどうか？

- ▶ JR中央線の連続立体交差事業は三鷹立川間で踏切がすべてなくなり、周辺の道路工事等が継続して行われています。駅周辺や高架下のまちづくりがどうか、現状のご報告と今後の課題に迫ります。

#### 震災後の東京はどうか？

- ▶ 放射性物質、帰宅困難者対策、災害時の情報伝達等東日本大震災後様々な課題が浮かび上がりました。震災後の東京都政の優先課題は何か、震災対応のための補正予算の効果や実効性はどうか、震災後の東京の課題に迫ります。

#### 中央線にホームドアを！ 公共交通の安全対策はどうか？

- ▶ 本年2月の都議会本会議で公共交通の安全対策について再度質問しました。今年度は初めてホームドアに対して都の補助が予算化されましたが、今後都内全体に広がっていくのかどうか、公共交通の安全対策の課題に迫ります。

#### その他意見交換

- ▶ 会場の皆さまのご関心を伺って、お話したいと思います。皆さまからのご意見・ご要望など直接伺い、今後の調査・政策立案活動に活かして参りたいと存じます。

Pick Up  
01

## 放射線量の測定拡充 都民の不安解消を図れ

放射線に対する都民の不安が高まる中、都議会民主党は、6月3日に都知事に対して、放射線量の測定箇所を増やすことなどを求める緊急要望を提出しました。それを受け、都は6月8日に放射線量の測定を都内全域で実施することを発表し、4キロメッシュで100箇所程度の測定とその情報提供が続けられています。武蔵野市内では、6月15日に吉祥寺本町3丁目の吉祥寺西公園で東京都職員による測定が行われ、測定結果は地上1メートル0.04マイクログレイ/時間、地表面(地上5センチメートル)0.03マイクログレイ/時間でした(大気中の放射線量1グレイは1シーベルトに換算出来ます)。



一方、高濃度の放射性物質が検出された下水汚泥について、東京都は「周辺環境への影響はない」と答弁するばかりです。今後とも、都議会民主党は、都民の不安解消に向けて取り組んでいきます。

Pick Up  
02

## 帰宅困難者対策も強化 東京の防災力をさらに高めよ

東日本大震災は、東京に震度5強の揺れと多くの混乱を生じさせ、東京の防災対策を見直す契機となりました。

都議会民主党は、東京で江戸期に三連動地震による大津波や、これに続く暴風雨などの複合災害が発生していることから、過去の災害分析から被害想定を研究すべきと都に求めました。ライフラインの耐震化、減災化対策の推進、首都圏全体での大震災への対応なども訴えました。知事は、三連動地震も視野に入れた新たな視点での防災対応指針を策定すると答弁しました。

また、帰宅困難者対策として、事業者に従業員の一斉帰宅を控えるための備蓄や、正確な交通情報の入手方法、家族の安否確認方法を示す啓発事業が重要と求めました。

都議会民主党は、発災時における社会対応力の強化や防災リーダーの育成などに一層取り組み、東京を災害に強い、持続可能な都市としていきます。

## 総務委員会 質疑 抜粋

◆6月27,28日の両日、松下議員は所属する総務委員会で、青少年治安対策本部と総務局に対して、質疑を行いました。青少年治安対策本部は震災後の緊急対策として約6500万円の補正予算で、広報の強化や防犯ボランティア団体等に対してのLEDベスト等の装備費を計上しました。松下議員は、震災後の都内の犯罪被害状況や、期待する広報の効果や検証、防犯ボランティアや各自自治体への実態調査や意向調査を行っているか等質問しました。補正予算が成立しましたので、今後各区市町村を通じて、防犯ボランティア団体等に対して、夜間パトロールのためのLEDベスト等が貸与されることになります。

又、総務局に対しては災害時の情報伝達の課題について質問しました。これは震災後、多くの市民の皆さまから防災無線が聞こえづらい、必要な情報が入手しづらい等ご意見を頂戴しましたので、広域行政として都がより迅速かつ正確に情報を伝えるという体制を整えるべきであると求め、今後例えば携帯電話やメール、ツイッター等の新たな情報伝達手法を研究すべきであると質問しました。それを受け都は、通信事業者を含めた協議の場を設置して、新たな情報伝達の手法について検討していくと答えました。



## 松下玲子の視点 — Viewpoint —

平成23年第二回都議会定例会が、7月1日に終了しました。前定例会の終了日に起きた東日本大震災より5ヶ月が経ちましたが、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された方々のお見舞いを申し上げます。今定例会では、震災に関連した補正予算と、今後のエネルギー政策が主な議題でした。エネルギー政策においては、今こそ省エネに向けた確固たる理念を都議会から発信したいという思いのもと、省エネに関する条例案を提出させて頂き、21年ぶりの議員提出条例案可決に至りました。議案として提案されていないものの、八ツ場

ダムに関して他党派から質問もあり、その際には不規則発言(やじ)で本体工事が未着工となっていることへの批判や、震災後の電力不足の中で東京のために水力発電が必要であるため早期に着工をといった声もありました。これは事実とは全く逆であり、実は八ツ場ダムが完成すると、これまで利用していた水力発電を東京電力は放棄しなければならず、発電の観点からも八ツ場ダムのダム本体を建設すべきではないことは明確です。

そもそも、2008(平成20)年には、三度目となる基本計画の変更があり、新たに発電が目的に加えられました。これはダム建設後は群馬県営の発電所を設置して、ダムの放流水を利用して発電

を行うというものでした。

しかし、現在既に吾妻川流域で東京電力が行っている発電量の5分の1になってしまうという試算もあり、多額な東電への減電補償費も明らかにされてはいるのが現状です。

国は今年の秋を目標に、八ツ場ダムの必要性について再検証を進めることとしています。私は、最新のデータで水需要予測を行うよう、都に対して継続して要望しています。秋まで時間が限られている中、都議会民主党として八ツ場ダムの勉強会も開催しました。今後、より議論を深め、民間のNGOや国会議員、各方面と連携していきたいと考えています。

原発の安全神話が崩れた今こそ、八ツ場ダムの本体工事の建設を止め、これまでの水力発電を継続して行うべきと私は考えます。

ご意見・ご要望をお寄せ下さい

FAX.0422-50-0697 E-mail reiko@matsushita.name

都議会民主党武蔵野支部 都議会議員

連絡先

# 松下 玲子 事務所

〒180-0006 武蔵野市中町1-3-2 ハウスプランニングビル402  
TEL.0422-50-0696 FAX.0422-50-0697 E-mail reiko@matsushita.name

